

地方だより

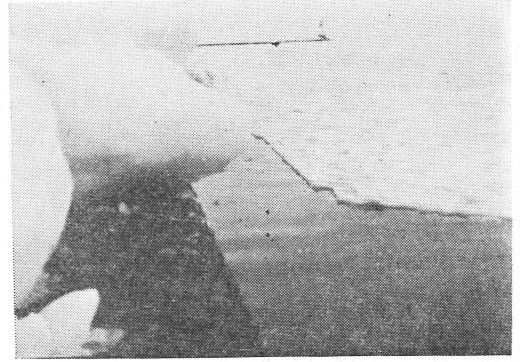
稚内測候所

—<流氷>—

北の端稚内では8月の盃蘭盆も過ぎると短い夏とはお別れで朝夕の冷え込みは次第に大きく9月には内陸部は結霜があり、10月に入ると雪虫が飛び文字通りの冬將軍の尖兵に見舞われ冬型の気圧配置が顕著になると連日の北西の季節風と降雪である。そして盛冬も下りに向う頃になると東風に乗って流氷が宗谷海峡に姿を現わして来る。

稚内の流氷初日は平成2月4日で最早は17年の1月13日、最晩は27年の3月25日（沖合迄接近したものが多く接岸は少く全く沖合に見られない年もある）である。

昨年稚内では珍しい流氷群が2月下旬から3月にかけて半月間の長い間湾内に滞留し、漁船や稚内一利礼而島間の連絡船は足留めされた。しかし今年は沿岸結氷の現象も観測されず3月に入ったのもうこの心配はないものと思われたが、4～5日來の東から北東に変わった強風によって宗谷海峡を西に移動していた流氷帯の一部が※



※去る3月11日早朝宗谷湾沖一帯に姿を現わし、引続き北寄の風で急激に接近5時間後には湾内は約7～8割の碎氷（Br）よりなる流氷域に掩われ港内は隙間なく押詰められ、漁船及び連絡船の出入は全く出来なくなった。しかし15日より南西風に変った為港内の一部を除いては殆んど離岸退去し、この間出漁中止となっていた漁船は一齊に出漁している。なおこの流氷の來去によって昨年と共に7月中旬解禁になる昆布は持去られ採集に可成り大



北風で防波堤に押上げられた流（Br）塊（稚内防波堤港内流氷港外離寺中）成田月昶撮影

きな被害を与えるものと思われる。又離島利尻、礼文には流氷の接岸はないのでこの方面はこれによる被害はありません。

流氷去って日和も次第に春めき、来月中は迄には黒い

土の顔も見られる事であろう。

以上

1957. 3. 17日記

稚内測候所技術係長 成田 月昶